

2026年度①

民 法

(全 2 ページ)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

民法①

I 下記についてそれぞれ 80 字以内で説明しなさい。(各 10 点)

- (1) 合同行為
- (2) 必要費と有益費

II 次の問題〔1〕または〔2〕のうち、1 問を選択して解答しなさい。(100 点)

〔1〕 次の事例につき、下記の間へ答えなさい。それぞれの問は独立したものである。(100 点)

1. A は、B から土地甲を賃借して、建物乙（時価 3000 万円）を建てて、乙に所有権保存登記を備え、土産物販売店を営んでいた。
2. A は、町おこし計画に賛同し、乙をミニシアターに改装することを計画した。A は、そのための資金 4000 万円を C 信用金庫から借り受け、その元利金の返還債務を担保するため、乙に抵当権を設定して、抵当権設定登記を行った。
3. A は、建築業者 D に依頼して、乙の床に固定した観客席を設置する改装を行い、E から 2000 万円相当のデジタル映写機丙を買い受け、乙に備え付けた。これらの改装により乙の価値は、約 6000 万円に上昇した。
4. A のミニシアターは収益が上がらず、C（借入金 4000 万円）・D（請負残代金 2000 万円）・E（残代金 1000 万円）のいずれに対しても債務が弁済できないでいた。
5. C が乙の抵当権の実行を申し立て、乙が 5500 万円で売却された。D も E も売却代金からの債権の弁済を求めた。

(問 1) C は貸付金全額を優先して回収できるか。(40 点)

(問 2) 問 1 において、仮に C が 4000 万円全額を回収できたとすると、D と E は残りの売却代金からいくらの配当を受けることができるか（手続費用等は問題にしない)。(20 点)

(問3) Cの申し立てた競売によってC自身が乙を買い受けた場合、土地所有者Bは、乙の収去と甲の明渡しをCに求めることができるか。(40点)

[2] 以下の文章を読んで各問に解答しなさい。(100点)

1. Aは、自己所有の甲建物で洋服店を経営している。
2. 2025年7月1日、甲建物の外壁の塗装が古くなり、見栄えが悪くなってきたので、Aは、B工務店に外壁を塗り直してもらう契約を締結した。Bの説明では、朝9時ころから作業にとりかかれば、1日で仕上がるとのことであった。そこで、Aは水曜が定休日なので、7月23日を作業日として希望し、Bも承諾した。
3. 7月23日、午前9時前にBが甲建物を訪れ、Aと簡単な打ち合わせの後、作業を開始した。午前中にBは足場の組立てと壁の清掃を行った。足場は鉄製のパイプと木製の床板を金具で留めて組み立てたもので、重りにより人が登っても倒れないようにしてあるが、地面や建物には固定されていなかった。
4. 午後1時からBの従業員Cが足場の上昇して塗装を開始した。Aも作業の様子を下から見ていた。
5. Cの作業が始まって数分後、足場の床板が傾き、Cが約2メートルの高さから後ろ向きに転落、頭部や背中等にケガをした。また、Aは、足場が倒れてくると思いあわてて逃げたところ、隣接するD経営のフラワーショップに並べられていた鉢花3個の上に転倒し、これらは壊れて売り物にならなくなった。
6. 足場の床板が傾いた原因は、床板を固定する金具の1つが、Bの取り付けミスにより外れたことであった。

(問1)

Dは、鉢花3個の損害を誰にどのような根拠で賠償請求できるか。(60点)

(問2)

Cは、ケガの治療費と慰謝料を損害賠償請求したいが、誰にどのような根拠で賠償請求できるか。(40点)